"徳川家臣団"1000人交流

静岡でプレ事業 「固い絆」再確認

家康公顕彰400年

来年、没後400年を迎える徳川家康の顕彰記念イベントに先駆けた「平成の"徳川家臣団"大会in駿府」（徳川家康公顕彰四百年記念事業静岡部会事業実施本部主催、静岡新聞社・静岡放送共催）が16日、静岡市葵区の市民文化会館などで開かれた。家康の命日に当たる17日を前に、旗本や御家人の子孫でつくる「柳営会」や「牧之原開拓幕臣子孫の会」など5団体の会員を中心に、徳川家臣の末裔（まつえい）100人や歴史ファンを含む約千人が集まり、交流を楽しんだ。

＝関連記事34面へ

あいさつした徳川宗家18代当主の徳川恒孝さんは「イベントを通し、江戸時代に日本人が育んだ平和で優しい心が静岡からもっと広がってほしい」と期待を述べた。

基調講演では、静岡大の小和田哲男名誉教授が「徳川家臣団の固い絆」と題して、家康の巧みな人心掌握術を紹介した。「家康は今川、武田、北条と、滅んだ大名の遺臣を積極登用した。天下を取れたのは家臣団との結束があってこそ」と話した。

パネル討論には、榎本武揚の曽孫に当たる榎本隆充東京農大客員教授、渋沢栄一の曽孫で渋沢栄一記念財団の渋沢雅英理事長、勝海舟の玄孫のフリーランスライター高山みな子さんの3氏が登壇した。

渋沢さんが「栄一は幕末、徳川慶喜に見いだされた非正規雇用者のような人物」と笑いを誘えば、榎本さんは「旧幕臣は明治期の日本の近代化に欠かせない人材だったのでは」と指摘した。高山さんは「勝が維新後、慶喜の名誉回復に奔走したのは江戸開城への責任感があったからだと思う」などと述べた。

江戸時代に関する講演活動などを展開している「徳川みらい学会」にサッポロビールから活動協賛金として50万円が贈られた。17日は同市駿河区の久能山東照宮などを巡る「お墓参りツアー」が実施される。

徳川家臣の子孫たちがパネル討論などを繰り広げた「平成の"徳川家臣団"大会in駿府」＝16日午後、静岡市葵区の市民文化会館

© 静岡新聞社 無断複製転載を禁じます

静岡で〝徳川家臣団〟大会

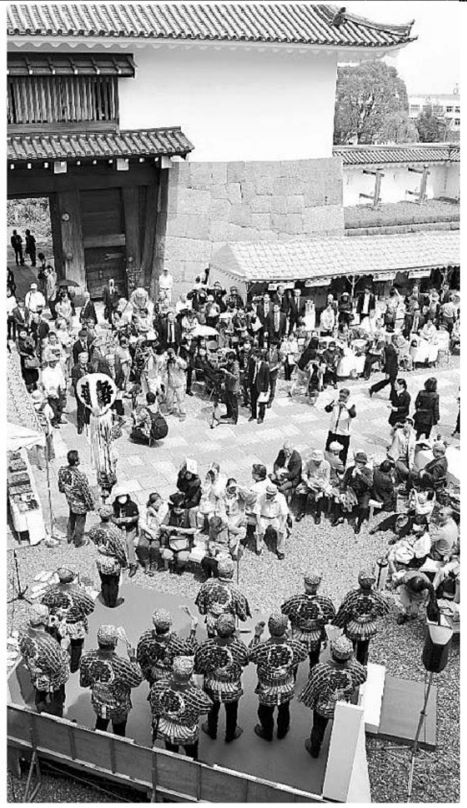
大名子孫や歴女ら

大御所の晩年 思いはせ

来年の記念事業 期待

家康公顕彰400年

全国各地から徳川家康ゆかりの地・静岡市に旧幕臣の子孫が集結した16日の「平成の〝徳川家臣団〟大会ｉｎ駿府」（徳川家康公顕彰四百年記念事業静岡部会事業実施本部主催、静岡新聞社・静岡放送共催）。同市葵区の市民文化会館で開かれた大会の前後には交流会もあり、参加者が家康に思いをはせた。「大御所がここで晩年を過ごしたのも分かる」。子孫たちは口々に語り、来年の家康顕彰４００年記念事業に期待を寄せた。



木やり歌なども披露され、多くの参加者でにぎわった「平成の〝徳川家臣団〟大会ｉｎ駿府」の交流会＝16日午前、静岡市葵区の駿府城公園巽櫓

駿府城公園巽櫓（たつみやぐら）で開かれた交流会で県内の食材を使った料理が振る舞われ、地元の「東嘉会」による木やり歌や清水芸妓（げいぎ）の踊りも披露された。

幕末に咸臨丸が太平洋を横断した際に軍艦奉行を務めた木村摂津守喜毅を曽祖父に持つ宗像信子さん(65)＝さいたま市＝は「静岡は気候も人情も温か。家康が大御所政治を行った気持ちが分かる」と笑顔を浮かべた。函館戊辰戦争で旧幕府軍の江差奉行並だった小杉雅之進の曽孫に当たる小杉伸一さん(61)＝横浜市＝は「静岡県をアピールできる機会。全国にもっと情報発信して」と今後のイベントを期待する。

参加者の中には大名の子孫や歴史好きの女性「歴女」たちの姿もあった。柳川藩（福岡県）の初代藩主立花宗茂が先祖という立花友克さん(70)＝横浜市＝は「２６０年間も平和が続いた歴史は世界でもほとんどない。家康の先見性に驚かされる」と、太平の世を切り開いた家康の功績をあらためて評価した。

愛知県西尾市から訪れた平野美帆子さん(27)と川部直美さん(41)の歴女ペアは「家康は地味な印象が強いけど、今の社会でも通用する教訓をたくさん残した」。家臣の子孫が一堂に会したイベントには「歴史上の人物が身近に感じられた。家康とのエピソードを聞きたい」と興奮気味だった。

徳川家康の生涯

※太字は県内在住時の主な出来事。実年齢表記

1542年(0歳)	三河国の岡崎城主松平広忠の長男として誕生。幼名は竹千代
48年(6歳)	織田家の人質として尾張国で過ごす
49年(7歳)	**今川義元の人質になり、駿府に移る。父広忠が国元で死去し、松平家当主に**
57年(15歳)	**義元のめいの瀬名(築山殿)と結婚**
60年(18歳)	**桶狭間の戦いで義元が織田信長に討たれる。岡崎城に戻って今川家から独立。人質生活を終える**
62年(20歳)	信長と同盟
66年(24歳)	三河国統一。姓を改め、徳川家康と名乗る
70年(28歳)	信長と共に姉川の戦いに参戦。**本拠地を遠江国に移し、浜松城を築城**
72年(30歳)	**遠江国の覇権をめぐり武田信玄と抗争が激化。三方ケ原の合戦(浜松市北区など)で武田軍に大敗**
75年(33歳)	**長篠の戦いで織田・徳川連合軍が信玄の跡を継いだ武田勝頼に大勝**
79年(37歳)	**信長から武田家との内通を疑われた築山殿を殺害。長男の信康も切腹させる**
81年(39歳)	**高天神城(掛川市)を奪還し、遠江国平定**
82年(40歳)	**武田家が滅亡し、領有していた駿河国を手に入れる。堺で滞在中に京都・本能寺で信長が明智光秀に討たれたと急報を受け、岡崎城に帰還(伊賀越え)**
84年(42歳)	**天下取りを目指す羽柴秀吉(豊臣秀吉)と対立し、小牧・長久手の戦いが起きる**
86年(44歳)	**大坂城を訪れ、秀吉に臣従。甲斐、信濃両国を編入して5カ国の大名に。居城を浜松城から駿府城に移す**
90年(48歳)	**小田原征伐に参加。**秀吉の命で関東へ移封され、江戸城に入城する
98年(56歳)	豊臣政権の五大老の1人に任命される。秀吉死去
1600年(58歳)	関ケ原の戦いで西軍を破り、事実上の天下人に
03年(61歳)	征夷大将軍に就任し、江戸幕府を開く
05年(63歳)	将軍の座を三男秀忠に譲る
07年(65歳)	**駿府城に移り、大御所政治が始まる**
14年(72歳)	**大坂冬の陣**
15年(73歳)	**大坂夏の陣で豊臣家を滅ぼす。武家諸法度と禁中並公家諸法度などを公布**
16年(74歳)	**田中城(藤枝市)でタイの天ぷらを食べ体調を崩す。4月17日、駿府城で死去。久能山に埋葬される**

© 静岡新聞社 無断複製転載を禁じます